



藤本 みのる 通信

Vol 328

2019年10月29日発行

大月市議会議員



自宅 大月市猿橋町小篠853

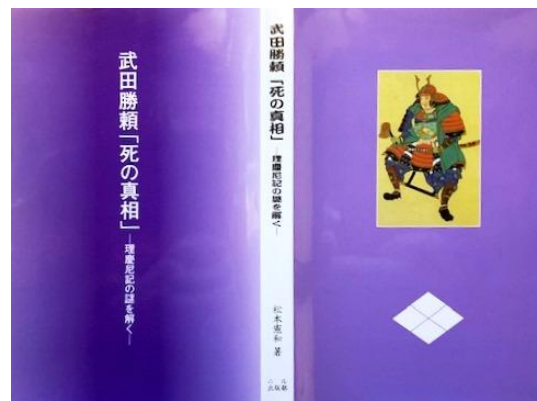
電話/FAX 0554-56-7272

歴史講演会に参加して

小山田信茂公顕彰会による歴史講演会「忠臣・小宮山内膳の遺書発見一笹子峠は封鎖されていなかった―」が開かれました。小宮山内膳友晴は勝頼父子の敗走にあたり、蟄居の身だったが家族帯同で駆け付け最後のお供を申し出て、蟄居を解かれ奮戦するも討死した家臣。江戸時代には忠臣ぶりが絶賛されました。遺書には妻が懐妊していたと書かれており、他国への同行は出来ず大月の山里に隠れ住んだと思われ、市内にご子孫宅があるようです。

さて、その忠臣の遺書から、笹子峠は封鎖されていなかったことが分かるとすれば、なぜ勝頼は笹子峠をこえなかったのか。大河ドラマ「真田丸」では、小山田信茂が裏切り峠を封鎖したため、不本意ながら天目山で自害したとされていましたが、「死の真相」はくつがえります。さらに、笹子は武田家直臣で犬居城主であった天野一族が住んでおり、峠を封鎖などできる環境にはなかったと思われるとも。名誉回復が見えてきたように思います。

『武田勝頼「死の真相」―理慶尼記の謎を解く』松本憲和著（2008年11月）



「江戸時代に甲陽軍鑑が普及すると、信茂の裏切りを憎む人々の手で、小山田氏の菩提寺・末寺にある関係墓石はすべて破壊され、現在満足なものは一基も残っていないと「小山田氏と岩殿城」（鈴木美良著）には記されているが、信茂の裏切りが冤罪（えんざい）ならば、実に気の毒な話である。私の結論を先に述べると、信茂の裏切りはなかったと考える」（P9、はじめに）。

松本先生は、小山田信茂公顕彰会で助言・講演をしています。

【藤本みのる活動日誌】

- 10月20日(日) 歴史講演会(小山田信茂公顕彰会・大商協ホール)
- 10月23日(水) 臨時全員協議会(台風災害に関する対応状況)
- 10月26日(土) 台風災害救援募金訴え(大月駅)
- 10月27日(日) 大月市消防団第6分団合同訓練